

雑損失の金額の計算書（令和 年度分）

台帳番号		—	—	
------	--	---	---	--

フリガナ	
氏名	
連絡先	

この計算書は、災害により住宅や家財などに被害を受け、雑損失の金額のうちに災害関連支出がある場合に使用してください。

1 損害の原因等

損害の原因		損害年月日	
-------	--	-------	--

→申告書3②「雑損控除」の「損害の原因」欄及び「損害年月日」欄に転記します。

2 災害関連支出の内訳

区分	支払先の名称・所在地等	工事内容	支払年月日	支払金額	支払金額の内訳			A 現状回復のための支出額 (ハ×30%+イ)
					イ 現状回復のための支出金額	ロ 資本的支出の金額	ハ イとロの区分が困難な金額	
現状回復のための支出				円	円	円	円	円
	合 計							
取壊し、除去等の費用	区分	支払先の名称・所在地等	工事内容	支払年月日	B 支払金額	【備考】		
					円			
合 計								

3 損失額の計算

区分	住宅	家財	車両			C 合計
損害金額 〔被災した住宅、家財等の損失額の計算書〕を使用した場合には⑤、⑪、⑫の金額をそれぞれ「住宅」、「家財」又は「車両」の欄に記入します。①	円	円	円	円	円	円
原状回復のための支出額 (2のA欄の各区分ごとの金額)②						
①と②のいずれか大きい方の金額③						
③から差し引く保険金等で補てんされる額 (③の金額を超える場合は③の金額)④	()	()	()	()	()	()
③ - ④⑤						
原状回復に係る災害関連支出の金額 (② - ⑤) (赤字のときは0、⑤の金額を限度)⑥						
取壊し、除去等の額の合計額 (2のB欄の各区分ごとの金額)⑦						
⑦から差し引く保険金等で補てんされる金額 (⑦の金額を超える場合は⑦の金額)⑧	()	()	()	()	()	()
⑦ - ⑧⑨						
災害関連支出の金額 (⑥ + ⑨)⑩						
損失額の計 (① + ⑩)⑪						

4 雜損失の金額(雑損控除額)の計算

区分	損害金額等の全体	
損害金額 (③のC) + (⑦のC)⑫	円	→⑫の金額を申告書3③「雑損控除」の「損害金額」欄に転記します。
保険金などで補てんされる金額 (④のC) + (⑧のC)⑬		→⑬の金額を申告書3③「雑損控除」の「保険金などで補てんされる金額」欄に転記します。
差引損失額 (⑫ - ⑬)⑭		
総所得金額等の額⑮		→この計算書の「書き方」をご覧ください。
⑮ × 0.1⑯		
⑭ - ⑯⑰	(赤字のときは0)	
差引損失額のうち災害関連支出の金額 (⑩)⑱		→申告書3③「雑損控除」の「差引損失額のうち災害関連支出の金額」欄に転記します。
⑰ - 50,000円⑲	(赤字のときは0)	
雑損失の金額 (⑰と⑲のいずれか多い方の金額)⑳		→申告書3③「雑損控除」欄にて転記します。
市・府民税の雑損控除額 (⑮と⑳のいずれか少ない方の金額)㉑		→⑮に分離課税の土地建物等の譲渡所得の金額が含まれる場合には、この計算書の「書き方」をご覧ください。
翌年度以後に繰り越す雑損失の金額 (㉑ - ⑰)㉒	(赤字のときは0)	